



2 / 2 0 賃上げ要求提出

統一要求10,000円



**バス東北は
誠意を示せ!**



国労東北自動車支部

発 責 北山修司
編 責 教 宣 部
NO,21
2014.3.6

2月20日(木)支部はバス東北会社に対し4月1日以降の賃金引き上げ10,000円と契約社員の基本日額4000円の引き上げを柱に要求を提出しました。
東日本本部、関東自動車支部は12日すでに要求を提出し鋭意

交渉中です。
アベノミクス
効果は一時的
アベノミクス効果は一時的な円安・株高を引き起こしていますが、今年4月の「消費税増税」を契機に国内景気が急激に冷え込むとの予想がされています。



非正規雇用はこの一年で133万人が増えて1956万人になり、3人に1人以上が不安定雇用さらされるなど雇用情勢は改善されていません。

下がり続ける賃金水準

資本金10億円以上の企業の2012年度の内部留保金は272兆円となるなど、2002年度から比較して105兆円(62%)も増加しています。

一方、労働者の賃金水準は1997年をピークに14年連続下がり続け、全産業労働者の平均年収は2004年で543万円だったのが2012年には487万円まで下がっています。

中でも、バス運転手の平均年収は2004年で453万円だったのが2012年には430万円と常に全産業労働者を下回っており、労働時間も250時間長く働いていることから時間当たりの収入は低下し続けています。(厚労省・賃金構造基本統計調査より)
今こそ会社は、私たちの切実な要求にこたえるときです。

国労仙地申第 21 号
2014年2月20日

ジェイアールバス東北株式会社
代表取締役社長 諸 積 恒 雄 殿

国鉄労働組合仙台地方本部
執行委員長 大 沼 元

2014年4月1日以降の賃金改善等について

個人消費や企業収益が持ち直し景気は緩やかな回復傾向が続いた日本経済において、ジェイアールバス東北の経営は順調に推移しています。

安倍政権は、アベノミクスにより強い日本経済を取り戻すとして大幅な金融緩和や大規模な公共投資を展開し、デフレからの脱却を目指し取り組んでいますが一時的には円高・株高をもたらしているものの4月から実施される「消費税率引き上げ」を契機に、国内景気は急激に冷え込むとの予想もされており、国内経済は予断を許さない状況と言えます。

厚生労働省の賃金構造基本統計によるとバス運転士の労働時間は全産業労働者を常に上回っているにもかかわらず、年収は下回り続けています。

国鉄労働組合が昨年実施した「2013年度賃金と生活実態アンケート調査結果」でも毎月の生活費が37000円以上の赤字を余儀なくされる中で期末手当や預貯金から毎月の赤字を補填しなければ生活できない状況が鮮明となりました。こうした中、4月から実施される消費税率引き上げは、さらに家計を直撃することになります。まさに賃金引き上げは、私たちの生活を維持するうえで不可欠と言えます。

このような私たちの生活実態を踏まえ、2014年4月1日以降の賃金改善等について、下記の通り申し入れます。速やかに団体交渉を開催し、誠意ある回答を強く求めます。

記

1. 2014年4月1日以降の賃金を10,000円(所定昇給は別)引き上げること。
2. 2014年4月1日以降の所定昇給額に対して一律、3/100を乗じた額を上乗せすること(10円未満の端数は切り上げ)。
3. 2014年4月1日以降の契約社員の基本日額を平均4000円引き上げること。
4. 契約社員の特殊作業手当を5000円引き上げること。(高速線は別枠)
5. 第2基本給を廃止すること。
6. 扶養手当支給年齢を18歳から22歳へ引き上げること。